

緑のボランティア通信

2011.1.1

No.13

川崎市が内閣総理大臣賞を受賞！

平成22年度 「緑の都市賞」 緑の都市づくり部門

(財)都市緑化基金が主催する「緑の都市賞」は、明日の緑豊かな都市づくり・街づくりをめざし、樹木や花などの「みどり」を用いた環境の改善、景観の向上、緑のリサイクル等に取り組み、緑化や緑の保全に良好な効果をあげている市民団体、企業、公共団体等の団体を顕彰しています。

川崎市は、緑の基本計画に基づいて進められている緑化の推進、緑の保全などの実績が総合的に評価され、内閣総理大臣賞を受賞し、「ひろげよう・育てよう・みどりの都市」全国大会において表彰されました。

これは、行政の取組に加え、市内で様々に活動している市民ボランティア団体のみなさまを始めとした、事業者や大学などの様々な主体による緑化や緑地保全に関する活動が評価されたものです。

今後も様々な主体と協働と連携を図りながら、「多様な緑と市民をつなぐ地球環境都市かわさき」の実現を目指して取組を進めてまいります。



問い合わせ：建設緑政局緑政課 Tel 200-2381 Fax 200-3979



主な内容

川崎市が「緑の都市賞」を受賞される	1
皆さんの活動を紹介します	2
協会ニュース	3
2010花と緑の交流会が開催されました	
町の景観づくりに小学生が協力	
第30回新春風揚げ大会	
かわさきガーデナー認定式開催	
雑学	4
花と緑に関するQ&A	4

皆さんの活動を紹介します！

小倉わんぱく広場 [活動場所:幸区 新川崎]

新鶴見操車場の跡地（JR横須賀線新川崎駅：新川崎地区）を拠点に活動する「小倉わんぱく広場」を紹介します。

小倉わんぱく広場は、平成15年度市民参加のワークショップによりできた新川崎開発地区の暫定緑地を使用管理する地域の緑の活動3団体の1団体で、平成16年3月より緑の活動団体として登録し活動を行っています。

この地区は、昨年、新たに「さいわいふるさと公園」として生まれ変わり、小倉わんぱく広場のエリアも7月に再スタートしました。

小倉わんぱく広場のエリアには、ラクダの背に似た二つの丘（わんぱく山）があり、山桃やコナラなどの樹木が植えられ花壇も作られています。わんぱく山の頂上には、シンボルツリーとして三春の滝桜（福島県三春町）の孫苗が植樹されていました。

小倉わんぱく広場は、毎月2回の活動を行いながら、こども達を中心に夢見ヶ崎プレパーク等のイベントを開催し、ベーゴマ・虫取り・穴掘り・工作や泥だんご作りに焼き芋作りを行うなど、こども達にとって理想的な楽しい自然の遊び場といえます。

昨年11月に行われた植樹祭には、地域の緑の活動団体「さいわい加瀬山の会」の応援と親子連れの大勢の参加による植樹が行われました。

植えられた苗木の生育は、こども達の元気な歓声にこたえて根付き、三春の滝桜が何年か後には、見事に咲き誇ることを期待します。

わんぱく山の雑木林の中で、世代を超えてこども達が遊ぶ光景が見えるそんな楽しい広場です。

近くには、川崎市の動物園・夢見ヶ崎動物公園もありますので、是非、広場を訪れることをお勧めします。



真剣に苗を植える子供達

協会ニュース

2010 花と緑の交流会が開催されました。

第4回花と緑の活動団体交流会が11月28日(日)高津市民館（ノクティ-2）で開催されました。

交流会には、緑の活動団体・公園管理運営協議会・公園緑地愛護会等、川崎市内で活動する花や森に関わる団体、延べ500名の皆さんが集い3会場に分かれて森の展示物やクラフト・道具の手入、花のパネル展示や土作り紹介等が行われ、また大会議室では緑のタウンページ・活動団体マップ・行政コーナー・自然の恵み試飲コーナー等が設けられ、4団体の発表や各団体の紹介も行われました。

ミニサロンでは、花卉のマイスターの吉田氏の目を見張る匠の技に、参加者の皆さんの驚きの声が会場に響き渡りました。

メイン講演会では、日本昔話の語りでも知られる俳優の常田富士男さんの口演は、独特の語り口に聞きほれ、うっとり癒された楽しい交流会の一時となりました。



町の景観づくりに小学生が協力

町の景観づくりとして、昨年11月、武蔵中原駅周辺・富士通前の花壇の冬期の花の植替えが行われました。

植替えには、市立大戸小学校の6年生約120名が参加し、協会及び市民ボランティア3人の指導で行われ、プランターには色とりどりのパンジーとピオラが植えられました。

また、生徒らが植えたプランターには、生徒の名前や「長くきれいに咲いて」などのメッセージの札が添えられました。

この花植えには富士通職員の皆さんの協力により進められ、地元地域と企業の協働のモデルとして素晴らしい活動といえます。

小学生の植えたホットな花壇を一度ご覧になられてはいかがでしょうか。



富士通敷地での花の植え付け風景

第30回新春凧揚げ大会



昨年の凧揚げ風景

当協会主催・中原区こども会連合会の協賛により、新年1月9日(日)、新春の大空にこども達の「大きな夢と希望」を託し、第30回新春凧揚げ大会が開催されます。

開催にあたり、子ども会には事前に無地の凧を配布し、こども達が思い思いの絵や文字を書き、これを凧の絵付け作品として審査されます。

凧揚げは、多摩川緑地宮内地区で13時から開始されます。

絵付け凧は、作品の中から優秀作品30点と中原区こども会連合会表彰作品20点が表彰されます。

新春凧揚げ大会は今回で30回を迎えますが、今年も会場の多摩川河川敷の空に沢山の凧が揚がることでしょう。

かわさきガーデナー認定式開催

昨年、10回目の開催となったかわさきガーデナー認定試験が昨年10月に市立橘高校で行われました。

試験には102名が受験され、試験の結果から30名の方が優秀な成績を修めた特級を取得され、さらに5回連続して特級を取られた「かわさきマスターガーデナー」が4名、初めて特級を取られ「かわさきガーデナー」となった方が2名という結果となりました。



教室での試験風景

この認定式は、1月22日(土)10時から川崎市総合自治会館で行われます。

また千葉大学准教授の國分 尚先生による記念講演が行われます。皆様のご参加をお待ちしております。

お問合せ (財)川崎市公園緑地協会 緑の活動支援課 までお問合せください。

松竹梅

中国の文人画（絵画）の画題「歳寒三友」から伝わったものとされ、慶事の等級の呼称として広く表されています。

松・竹・梅の順で表す場合が多いようですが明確な優劣があるわけではないようです。

中でも、正月のめでたい植物で祝いごとの飾り花としての「松竹梅」の鉢植えは、すっかり定着しています。

鉢植えの「松竹梅」は、松と竹と梅とがそれぞれ別個にあるのではなく、一組になっていなければなりません。そして縁起物として作られるもので、必ず根があるものを使います。

作り方は各地域によって異なりますが、関東では梅が大きく、松は比較的小さいものを使い、関西では松が中央で梅は小さいものを使います。

松竹梅のそれぞれのいわれですが、松は風雪に耐え長生きする植物で、そのりりしい形のため「常盤・千歳の齢・延年」を表し、竹は「純粹・節操・素直・成長」を示し、花や実をたくさんつける梅は、「高潔・繁栄・繁殖」を意味します。

いずれも新年を飾るのにふさわしい植物です。また、南天も「難を転ずる」とされ、お正月には欠かせない植物です。



ツワブキ

花言葉：「謙譲・困難に傷つけられない」

葉がフキに似ていて、かつツヤがあるので、「ツヤのあるフキ」→「ツワブキ」となった。丈夫で、日陰でもよく育つので、庭に植えられ、秋冬の貴重な彩りとして重宝する。

原産地は日本・中国・台湾

キク科の多年草

(写真撮影：協会 栗原国男)

花と緑に関するQ & A



Q

原産地は地中海沿岸地方で、明治末期に日本に渡来し近年では正月の花としてよく花屋さんで見かけます。花色のはさまざまあり花弁が上にそりかえっているのが特徴です。花は春まで咲かせることもできます。

- 1 カタクリ 2 セントポーリア 3 シクラメン
4 パンジー 5 フジ

A

学名、Cyclamen（シクラメン）。この球根を野生の豚が食べたことから「豚の饅頭」と呼ばれ、又、花の形状がひっくりかえって咲くことから、「篝(かがり)火花」とも言われています。

最近では「長く咲かせたい」「来年も咲かせたい」との期待から、シクラメンの育て方の研究も進み、水やり・肥料・株の管理方法なども定着し、愛好者は増えて、高級感のある大衆的な園芸種となっています。

(シクラメン)

発行・編集

(財)川崎市公園緑地協会 緑の活動支援課

〒211-0052 川崎市中原区等々力3-12
電話 044(711)6631 FAX 044(744)8410